

たものは、みぐるしい縫い縮みを生ずる。これは、ミシンの回転速度の如何にかかわらず起る。この原因を探究するため、次のような実験を行なった。

2. 試験布……テトロン・ナイロン織物（フィラメント糸）平織・斜文織の二種を用いた。

ミシン針……市販のミシン針・試作のミシン針——針の先頭部の形状は、尖ったもの、拋物線状をなすもの。——

縫糸……テトロン・ナイロン縫糸

試験布は、たて方向に、長さ90cm、幅5cmに切り、これを二つ折りにして、1000rpmにてミシンがけを行ない、次のような結果を得た。

3. (1)ミシン針の先頭部の形状による影響が大である。即ち、尖った形状のものが最もよく縫い縮み、市販の針がこれに次ぎ、拋物線状をなすものは、縫い上がりがきれいである。

(2)斜文織は、平織より縫い縮みが少ない。

43. 織物の縫製に関する研究（第1報）

合織織物における縫目の縮みについて

広島大教育 大池 久子

1. 合織織物、特に、テトロン・ナイロン織物の薄地ものは、ミシンかけした場合、斜方向に縫ったものは、縫い上がりがきれいであるが、たて・よこの方向に縫っ